



清風

南砺市立上平小学校
学校だより
令和3年9月
上平小学校ホームページ
<http://kamitaira-e.el.tym.ed.jp>

地域と家庭と学校で

教頭 安田 陽子

今年度1回目の学校評価を保護者の方々にしていただきました。23項目中19項目は、80%以上の高評価をいただきました。しかし、昨年同様①「家庭学習の習慣化」②「規律ある生活習慣」③「ゲーム、SNSの約束時間を守る」の3項目に加え、④「自己肯定感」については、目標の80%を大幅に下回る結果となりました。この4項目については、学校での取組の他、各ご家庭や地域の皆様と一体となった取組が不可欠のようです。

本校では、今年度からESD教育に取り組んでいます。本校が考えるESD教育は、H26年の開校以前から平・上平地域で地域の皆様からのご支援を賜りながら取り組んできたふるさとを活動拠点にした学習と国語や算数等の教科を関連させながら取り組んでいくものです。

先日、低学年が今年度初の校外学習に行きました。上梨のこきりこ館でささらを編む体験をさせていただきました。その際、丁寧に優しく教えていただき、50年以上もささらを編み続けている方の紹介をしていただいた子供たち。いつもはノートを書き始めるまでに時間がかかる子供もいますが、この日は違いました。どの子供も自分が体験したことから、感じたこと・気付いたこと・考えたことを時間いっぱい書いていました。そして、「50年以上続けたいことを私も見付けていきたい。」と、昔からの伝統を守る姿や現在の感覚を融合させて観光客にもアピールしていこうとする地域の気概に心が揺さぶられている様子でした。また、3年生は、1学期にカイコを育てることを通して、おばあちゃんたちが子供だった時代に関心をもちました。そして、お家の人に聞いたことを基に当時の様子を地図と言葉でまとめ、友達と伝え合う姿も見られました。

このような経験は、必ずや子供たちの「ふるさとを思う心」に結びつきます。教師から出された宿題だけが家庭学習ではありません。子供たちが日々の学習や五箇山タイムの時に感じた疑問を家に帰ってから、近所の方や家の人に尋ね、自主学習ノートにまとめてくる活動も立派な家庭学習です。

地域・家庭・学校のトライアングルが子供たちの心に響く教育をしていけるよう今後もご支援ご協力をお願い申し上げます



どんなときでも体力づくりの習慣を

体育主任 荒木 裕治

スポーツ庁の資料「コロナ禍における運動・スポーツの実施について」(令和3年2月)によると、スポーツ・運動がもたらす効果について①自己免疫力の向上、②ストレス解消、③体重コントロール、④体力の維持・向上、⑤血流の促進が挙げられており、コロナ禍においても十分な感染症予防対策を行った上で、運動習慣を身に付けていくことが重要であると言われています。本校では県の感染症警戒レベルを考慮し、現在、業間運動の実施を見合わせておりますが、休み時間になると、元気にグラウンドに飛び出してブランコに乗って楽しむ子供、虫取りに励む子供、キャッチボールに精を出す子供等、子供たちの歓声が響き渡ります。子供時代の身体活動は、その年代の健康に寄与するだけでなく、大人になってからのライフスタイルや健康に寄与することも指摘されています。楽しみながら運動に親しむ中で、心身ともに健康な子供を育みたいと思います。